

[日時]2022/5/18

[場所]3A204 Microsoft Teams

[出欠]出席 61 遅刻 3 早退 1

[議題]令和 3 年度議長団選挙(副議長)

[資料]

- ・ 22001_第 2 回本会議議事次第
- ・ 22002_令和 4 年度議長団選挙に関して
- ・ 参考資料 1_筑波大学の学生組織等について
- ・ 参考資料 2_筑波大学における学生組織及びクラス連絡会等について

[会議の流れ] 開会→資料確認→出欠確認→議題→採決→委員会報告→その他諸連絡→散会

開会

資料確認

出欠確認

議題

◇森本（議長）

本日の進行について話す。基本的に資料「22002_令和四年度議長団選挙について」のとおりである。この通りに進める。注意事項を述べる。座長団の皆様は候補者に対し、信任、不信任、保留のどれかに投票すること。信任が過半数の場合、その議長または副議長はそれぞれ議長、副議長として選出される。また、不信任が過半数の場合は、本年度の議長団選挙には立候補できない。また、白票、無効票についても定義している。読んでおくこと。本日の信任投票及び決選投票によって選出が完了しない場合には、来週も本会議を実施し、選出が完了するまで議長団選挙を行う。非常に大切な選挙なので、投票をお願いする。

◆森(社会学類)

社会学類 1 年の森である。先週の本議会で信任されるにふさわしい話ができず申し訳な

い。私が副議長を1年務められるよう、昨年度1年分 Teams にある資料をあらかじめ読んできた。また、こちらの方々に協力をいただき、昨年度の活動について取材をしてきた。回答してくださった先輩方、この場を借りて感謝を申し上げる。今回先輩方の意見を引用する時、便宜的に昨年度委員長陣と称させていただく。あらためて自分が全代会にて具体的に提案したい、私が副議長に就任した際の方針を提示していく。

第1に、福利厚生委員会での協議についてである。福利厚生委員会の学生委員の任期改正が昨年度行われた。生協の無い筑波大学で、昨年度撤退や値上げが業者の自由な判断で起きた事が福利厚生委員会の任期改正のきっかけになった。福利厚生委員会は学生や教職員に不利益が発生することが無いよう教職員や理事と共に会議していく場である。実際の会議は生活環境委員会が主体となるだろう。しかし昨年11月の副学長懇談会の中で教職員からこのような発言があり、福利厚生に関する全代会の要望を適宜大学に伝えないと委員会が開催されない可能性があるので、全代会で大学の担当者と会う機会が一番多い議長団として動向を注視する必要があると考えた。

第2に国際委員会の設置についてである。昨年度、留学生の全代会参加について検討されてきたようで、留学生と全代会で交流されたことがあるそうだ。現在は国際チームがあり、これを特別委員会へ発展解消する形になると思う。昨年度委員長陣から留学生の対応を継続してほしいという意見があり、皆さんこの形が望ましいとの意見でほとんど一致していた。しかし留学生が全代会に参加する時、これら(スライド)の問題点があると考ええる。つまり今年度はこの課題について部門を超えた連携が益々必要になる、と予測するので、国際チームの方と共にその連絡調整役を私が副議長として担っていきたい。また負担が多くなるので兼任委員だけで活動することは難しく、専門委員獲得に向けて留学生交流や英語活用場として全学生に向けて積極的に発信していく必要がある。また、国際チームに限らず人員増加は全代会の業務改善につながるので、新規専門委員獲得は恒常的な課題だと認識している。そこで必要な事が、全代会の認知度向上である。

認知度向上に関連して、第3に多種多様な全代会の広報活動についてです。全代会の広報は広報委員会が最も強力だが、広報において万能という訳ではない。手段を増やして広報を続け、全代会の認知度を向上させていくべきだ。但しスライド中の3については議長団に関係なくできるので省略する。

クラ代を通した広報活動では、例えばアンケートは座長団を通して学類の各クラスに渡って告知する現在の方法の中で、より多くの意見の反映の為に回答数を上げる方法があるか、各座長団から様子を聞いて纏めて手段について改善案を出していく事を議長団として進められればと思う。また、昨年度調査委員会実施のアンケート結果を見ると3年次以上の方から回答が少ない事が多い。正確な分析はもう少し時間を必要とするが、座長団が主に1・2年で構成されており、座長団が3年以上のクラス代表と連絡が取れていない可能性が考えられる。この仮定が正しい場合は学年を超えた各学類の連絡網が作れるかを模索する必要がある、代表が居ないなど連絡網形成が不可能な学類では上級生の学年主任の教

職員等に連絡を取る、など座長団のみで対処不可能な事を全代会特に議長団で手助けする事を予想している。全代会が協力する案件を利用した広報活動について、昨年度は食料配布に全代会が協力する時、全代会の名前で告知に協力する事で全代会の広報活動にもつながれた、という話が昨年度委員長陣の方からあった。ポスター制作など実務の面で広報委員会の方が活躍しておられたが、全代会の様々な活動から、どうやって広報につなげていくかという観点は、全代会を俯瞰できる立場にある議長団がある程度役に立つと考えている。

最後に全代会1年交流会(仮)についてである。昨年度委員長陣の方から、全代会は年度末に2年生から1年生へ業務が引き継がれる形になるが、2年生が年度を通して1年生の手助けをうまく行えず、引継ぎが上手くいかなかったり、委員会を超えた1年生同士の交流を作れなかったりしたという話や、対面環境が少なく活動しづらい環境になってしまったという話があった。また別の方からは、全代会には新たな方針を提案する人がいた方が議長団にいた方が良い、という意見もあった。しかしすでに信任されたお二方の話は現状の改善に関わる話がメインであり、私自身も意見や構想を積極的に創造する性格であると断言できない。よって全代会の様々な意見を収集して方針を作る必要がある。

これらの課題を解消するために、私が副議長となった時の公約として「全代会1年生交流会」の設置構想を提案する。この交流会は文字通り全代会に所属する全ての1年生同士月1回程、委員や学類の垣根を越えて全代会に集まり、それぞれの学生生活や全代会での活動について意見交換を行う場所である。この会を通し1年生で委員会を超えた交流を持つ事、また私が副議長として業務の伝達や助言を行えば引継ぎの手助けになる事、更には新たな意見交流の場により新たな発想を見出し、全代会の新たな方針として実現する事で全代会の活性化につながる事、等を考えている。

これは河野議長の考える組織内部の整備の助けとして、河野議長が委員長連絡会側から、私が交流会を通して委員側から整備をすることになると考えている。そして、交流会で生まれた関係性を先に述べた国際チームの連携にも活用する事も想定している。長らくのご清聴感謝する。

◆政近(比較文化学類)

話がとても面白かった。先週よりブラッシュアップされたと感じた。素朴な質問だが、1年生交流会は、一年生しか参加できないのか。2年次に委員長や議長団にならない人たちは参加できないのか。そうすると2年以上の専門委員の意見をどう汲み上げるのか疑問に思った。

◆森(社会)

1年生がメインではあるが、もちろん2年生に参加してもらうことも検討している。ただ全大会をメインにすると人数の都合上1年生を優先することになると考えるが、2年生も含めて大人数になるなら、私が率先して大きな部屋を確保し、大きな交流の場にできればと考えている。もちろん2年生にも参加して頂きたい。

◆浅野(社会工学類)

率直に伺う。森候補の挙げられたアジェンダのなかで、3年次以上の方へのアンケートを普及させたい、国際委員会になるかもしれない国際チームの活動を支援したいといった頼もしい意見があったが、アンケートの件などは、一部の座長団が懸念していながらも、1年の任期が切れてしまい活動がうまくいかなかった経緯がある。そういう点に関し、森候補は1年生での挑戦ということでフレッシュな状態で取り組めると思うが、2年間何らかの形でこのような取り組みに継続して参加する意思はあるか。

◆森(社会)

絶対に参加する。私が事故などでやむを得ず休学をすることが無い限りは、絶対に2年間参加し続け、議長団も2年間参加し続け、この課題を徹底的に究明できればと考えている。

◆中田(教育学類)

国際委員会の委員会化の話についてされていたが、その中で委員会化が実現された際に座長団の中で国際チームに入っている人が兼任になってしまうので、専門委員を増やそうと考えているという意見があったが、そちらは納得できる。疑問として、現在別の委員会に所属していて、その中で国際委員会への異動や移籍を希望する方をちらほら耳にするが、兼任ではなく完全な移行という形は考えているか。

◆森(社会)

まず国際委員会は特別委員会としての設置が望ましいと考えており、これは昨年度の委員長陣の方の多くの意見として共通している点でもある。そして特別委員会だとなぜ専任が作れないかというと、現在新入生歓迎に関する特別委員会が設置されており、これは原則兼任できないという状況であり、国際委員会も特別委員会として設置されると、確認不足で申し訳ないがおそらく専任が制度上できないので、座長団の場合は兼任が原則になると判断している。

◆宮内(医学類)

1つ意見と1つ質問する。まず意見として、施策の中の多種多様な広報活動を展開することについて、個人としては良いことだと思う。全大会という組織自体が全学的にどれくらい

知られているかを考えた時に、少なくとも僕の学類だと知っている人は決して多くはないという現状がある。コロナ下もあって課外活動を展開していこうという取り組みの 1 つとして、今年度に関しては全代会の方への活動を推奨していくというのを考えている。よってぜひ広報活動を展開してほしいと考える。質問の方に移る。3 年生以上の学生がアンケートにどう答えてくれるかを模索することについて、おそらく全代会に所属する 3 年生以上の学生があまりいないのではと考えているが、具体的にどのように模索していくと現時点で考えているのか。

◆森(社会)

お答えする。全代会の 3 年生の所属が少ないことが承知している。その上でどうやって 3 年生に伝えていくかは、全代会の座長団がそれぞれの学類で伝えていく際に、全代会に 3 年生が少ないために難しい、ということなので、3 年生の各クラスに接触するには、直接 3 年生に出向くか、3 年生の学年主任あるいはクラス担任の方を介して連絡を取り持つという方法を今のところ考えている。これを行うときに、座長団のみで行うのが難しい場合、全代会を代表する形で議長団が補助できればと考えている。

◆谷口(知識情報図書館学類)

生活環境委員会と教育環境委員会の境界が曖昧だという問題を一年生交流会などで対処するというお話だったと思うのだが、その具体的なメカニズムを教えてください

◆森(社会)

お答えする。一年生交流会では各委員会が参加し、その中には生活環境委員会と教育環境委員会も含まれている。その交流会の中で委員が自身の仕事の内容やどういった案件を担当できるかを教え合えば、そのような境界の曖昧さに対処できると考えている。

◆政近(比文)

これは意見になってしまうかもしれないが、三年次以上へアンケートが届かないのは全代会だけの問題だけではないと考えている。私の学群でもアンケートを取ったが、3,4 年生がほぼ集まらなかった。三年次以上の人からのアンケートの集まらなさは、全代会の認知度の問題ではなく、もっと根本的な問題だと思う。険しい道が待っていると思うが、この問題の解決を期待している。

◆森(社会)

貴重なご意見感謝する。このご意見をきちんと参考にした上で活かしていければと思っています。

◆森（社会）

先週おぎなりにせずにきちんと判断してくれたことで、今週きちんとした提案ができたものだと考える。そのため、先週どのような投票をした人にも感謝する。また、ある程度覚悟していたが、未だ認めてもらえない人もいることを十分に承知の上で活動を通して納得してもらえようような成果を見せたいと思う。

採決

◇森本（議長）

信任 44 不信任 2 保留 6 白票 2

出席している座長団の3分の2以上の信任が得られたため、信任されたものとみなす。

以上で議長団選挙を終了する。先週の会議と合わせて、今年度議長に河野、副議長として山岸、森が選出された。今年度活動を頑張ってほしい。サイドテーブルにある、委員会報告に移る。各委員会の委員長は報告をお願いします。総務委員会からお願いします。

委員会報告

○山岸(総務委員会 事務部門)

- ・火曜日に定期報告会で、各役割の仕事の伝達等を行った。
- ・第一回本会議の議事録を作成中

○蒐場（情報部門長代理）

- ・先日ミーティングを実施。情報部門として一回目のミーティングであったが、皆参加し、今後の活動方針を固めた。
- ・議事録と Campus のホームページへ掲示を行うため、その際に広報委員会の人に協力をお願いします。

○沼田(学内行事委員会)

- ・5月24日に雙峰祭の一次計画の赤入れミーティングを行う。5月24日18時半からの予定である。
- ・6月7日と6月13日に赤入れのミーティングを行う予定。場所は未定で、決定次第、teams の内行のチャンネルに掲載する。

○中田(教育環境委員会)

・先週金曜日に第一回のミーティングを実施。内容としては、専門委員との顔合わせ、今年度の活動の見通し、また全代会で使用されている議事録を確認できるエヴァの登録を行った。

○成田(生活環境委員会)

- ・今週は特にミーティングなし。
- ・来週から新しい専門委員の人が加わるため、来週のミーティングで紹介予定。

○林(調査委員会)

- ・先日第一回のミーティングを行い、顔合わせや、仕事の流れを確認した。
- ・性質上、実践で経験を積むという感じになるため、調査委員会に仕事を振る際は多少時間がかかってしまうことを了承願いたい。

○江波戸(広報委員会)

- ・5月27日に行われる宿舎祭に向けて Campus の特例号を企画中

◇森本(議長)

その他、連絡がある人は挙手をお願いします。この後委連会の顔合わせを含め行うため、該当する人は参加をお願いします。他に諸連絡がある人がいたらお願いします。ないものとする。以上で第二回本会議を終了する。皆、二週にわたり参加を感謝する。本日から新しい全代会が始まるため、各々活動を頑張ってほしい。

以上 総務委員会 後藤生穂 作成